



ゲスト講師
東京新聞記者、ジャーナリスト
望月衣塑子氏

敵基地攻撃能力と 憲法9条

〜どうなる？ 軍拡と財政問題〜

参加無料

2023年9月2日(土) 午後2時～午後5時
場所: 広島弁護士会館3階ホール

敵基地攻撃能力と

憲法9条

2022年12月に、安保三文書が改定され、反撃能力の保有が明記された上、防衛費は今後5年間で約2倍の43兆円とする内容が閣議決定されました。従来、政府は憲法9条に基づく専守防衛を掲げてきましたが、この度の安保三文書は、その防衛政策を大きく転換するものです。

このような安保三文書の内容をはじめ、日本の現状を広く市民の皆さんに知っていたくために、東京新聞記者・ジャーナリストの望月衣塑子さんをメイン講師にお招きしたイベントを企画しました。また、岩国基地・呉基地のある地元からの御報告も予定しています。

今回のイベントにおいて、今後の日本と世界の平和のために、日本の進むべき先を市民の皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

東京新聞記者、ジャーナリスト

望月衣塑子氏

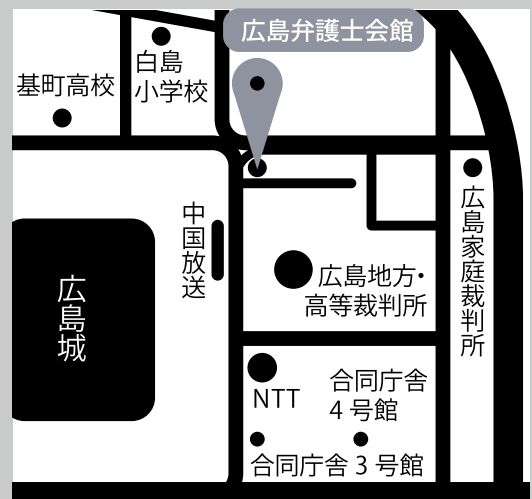
1975年、東京都生まれ。2000年に東京・中日新聞に入社。千葉、神奈川、埼玉の各県警、東京地検特捜部などで事件を中心に取材する。2004年、日本歯科医師連盟のヤミ献金疑惑の一連の事実をスクープし、自民党と医療業界の利権構造を暴く。東京地裁・高裁での裁判を担当し、その後経済部記者、社会部遊軍記者として、防衛省の武器輸出、軍学共同、をテーマに取材。17年4月以降は、森友学園・加計学園問題の取材チームの一員となり、取材しながら官房長官会見で質問続けた。現在、社会部遊軍記者として、入管問題、ジェンダー格差、ロシアのウクライナ侵攻など取材。著書に『武器輸出と日本企業』(角川新書)、『武器輸出大国ニッポンでいいのか』(共著、あけび 書房)、「THE 独裁者」(KKベストセラーズ)、「追及力」(光文社)、「権力と新聞の大問題」(集英社)。「なぜ、日本のジャーナリズムは崩壊したのか」(講談社+α新書)、「嫌われるジャーナリスト」(SB新書)、角川新書『報道現場』(角川新書)、「ジャーナリズムの役割は空気を壊すこと」(集英社新書)、2017年に、平和・協同ジャーナリスト基金奨励賞を受賞。2019年度、「税を追う」取材チームでJCJ大賞受賞

参加無料

2023年9月2日(土) 午後2時～午後5時
場所：広島弁護士会館3階ホール

●イベント内容

- ① 岩国米軍基地・呉自衛隊基地の現地報告
- ② 講演
講師：東京新聞記者 ジャーナリスト 望月衣塑子氏
- ③ 質疑応答



共催：日本弁護士連合会、中国地方弁護士会連合会